

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとこころの支援室 にしまち			
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～	令和8年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54名	(回答者数)	49名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 6日		～	令和8年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士を中心とした個別言語療育という専門的な軸があること。	方針を保育士等と共有すること(多職種協働)により、多角的な支援が可能になっていること。 定期的に勉強会を開催し、療育の知識・技術に努めていること。	スタッフが研修などに参加できる機会を増やし、新しい知識をみんなで共有していくことで、より専門性の高い療育の提供を目指す。
2	保護者の方の同席が基本体制であるため、療育の見学・参加ができる環境であること。	保護者の方に療育に見学・参加していただき、園や家庭での様子の情報共有、困りごとなどの相談援助、療育の様子のフィードバックなどを行っていること。	今後も研修等を通じ、よりの確な相談援助を行える体制を整えていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他の子どもとの交流機会が低いこと。	個別療育のため他の子ども達と交流する機会が少ない。 イベントを実施し交流の機会は設けているが、子どもの年齢や特性と合う内容が、個々によって異なる可能性がある。また就業している保護者が多いため参加負担も影響している可能性あり。	多様な年齢や特性、保護者の参加負担を考慮したイベント内容の再検討を行う。
2	安全対策等は適切に実施しているものの、周知不足でが推測されること。	伝達方法に課題あり。保護者と情報共有できるアプリを利用しているが、お知らせの閲覧数が少ないことが推測される。	情報のアナウンス方法や、視覚的に分かりやすい情報発信方法の検討を行う。
3			